

高島町立 高島中学校
校長 完戸陽介氏



できそうだ!という実感だと思っています。職員は、毎時間の授業の中で、一人一人に何か一つこの実感を味わわせることができる授業をデザインすることを大事にして授業改善をしています。

善をしています。

また、ドリームマップ(かの大谷選手で有名な曼荼羅チャートのようなもの)や高校調べ、Waku Waku Work、職場体験、地域探究学習等キャリア教育に計画的系統的に取り組んでいます。この取組をとおして、子どもたちが自分と向き合い、将来を見つめデザインする力を育むことで、主体性を高めていきたいと考えます。

(2) 選択と自己決定

本校では宿題忘れに対する放課後の「居残り」を止めました。子どもたちは、早く部活に行きたい、帰りたいと思い、せつせと答えを写します。そうやって提出させても子どもたちの力にはならないと判断したからです。しかし、出された宿題を期限までにやりきることで、つまり約束を守ることは、社会生活では大事なことです。本校では、提出が厳しそうな生徒には、「どこならできる?どこまでなら?」との問いかけをした上で宿題に取り組ませています。長期休業中の課題も同様です。教師は複数の選択肢を与え、子どもたちは、どうしようか考え、迷いを経て自分の意志で決定していく。これは、人生に生きる大事なプロセスととらえています。

(3) 個別最適な学び

3年、決断の時を迎えます。一番苦しい時、でもこの時が一番伸びる時です。希望実現には得点力も重要です。本校では、管理職、3年の教科担当者が集まり、対策会議を実施します。一人一人の教科の習得状況を把握し、第一希望実現に向けて、どの教科のどの分野を、誰が、どの時間に、どのように取り組ませ、見取っていくかを分担します。その分担にしたがって、「あと一歩」の生徒と向き合い、選択肢を示し、自己決定のもとに、めあてをもった一日一日を過ごさせていく。そうして、澁むことなく過ごした生徒は、必ず、泣きながら喜びの報告に来てくれるものです。まさに教師冥利の瞬間です。受験の不安は勉強に立ち向かうことでしか拭えない、今も昔も同じです。

3 結びに

子どもたちの力、良さを伸ばす教育は、学校だけで完結できる時代ではありません。メディア、SNS…子どもたちを取り巻く環境は激変しています。そのような時代だからこそ、あらためて、「ちゃんと食べて、ちゃんと寝る。」この土台がしっかりしていれば、もっともっと子どもは輝ける、学校も輝ける、高島町が輝く…60を過ぎてしみじみ思う今日この頃です。ご清聴ありがとうございました。

0 はじめに

この度は、貴重な機会を与えていただきまして心より感謝申し上げます。事前に、遠藤教育長様を通じて依頼されました2つのテーマについてお話させていただきたいと存じます。

1 県立高島高等学校との連携について

皆様ご存じのとおり、近年定員割れる公立高校が増えております。高島高校もその一つです。なぜか?私見になりますが、管内全体の生徒数減少とは対照的に、私立高校への進学希望者数が一定していることが背景のひとつにあると考えております。

本校の私立高校への進学者率の状況は、開校から30%前後で推移していましたが、令和3年度37%、令和4年度53%、R5年度35%(2月末現在)となっています。決定理由についていくつか挙げてみますと。①中学校で頑張った部活動を高いレベルで継続したい。②通学に便利。③公立高校との学費の差が縮まった。④早い時期に安心したい。などがあるようでした。

一方、開校から18%前後で推移しておりました高島高校への進学者率は、令和3年度で10%、令和4年度にいたっては7%と過去最少となりました。

そのような中、今年度高島高校の県高校魅力化推進事業の指定を機に、高島高校と高島中学校の連携活動が本格化しました。具体的には、中高ともに「総合的な学習の時間」に実施している高島高校「高島ゼミ」と本校「高島探究プロジェクト」の成果発表会を相互に参観し、感想や意見を述べ合うというものです。中学生は、先輩の表現力の高さに感動し、自分たちの発表を高校生に評価、支持してもらったことが大きな自信となったようでした。

高校生の所作や発言、振る舞いのすべてが中学生にとつての「憧れ」となったことは、高島高校そのものへの魅力に繋がったことは確かです。合わせて、町当局の高島高校入学生に対する手厚い支援策も奏功し、今年度の高島高校進学者率は持ち直しそうです。

この兆しが一過性とならぬよう、今後も高島高校との連携を着実に重ね、先輩が高校の核となって活躍し、またその姿に後輩が憧れて後に続く、そしてさらには、卒業後本町を支える人材になって根付く、そのようなサイクル確立を願ってやみません。

2 本校の学習指導について

義務教育において小学校と中学校の最大の違い。それは、エスカレーター式ではないということです。そう考えた時、子どもたちの進路実現に向けて、一人一人が具体的イメージを膨らませ、自らが主体的に学びに立ち向かう手助けをしていくことが学校の責務と考えます。そこで本校では、子どもたちの「第一希望の合格率を向上させること」を目標に、①主体性、②選択と自己決定、③個別最適な学び、の3つのことを大事にして実践しています。

(1) 主体性~好きこそもの上手なれ~

子どもたちが「うれしい」「もうちょっと頑張ってみようかな」と思う原点は、今も昔も「わかった!」「自分でも

Rotary

Rotary International District 2800
2023~2024
TAKAHATA ROTARY CLUB

3月7日



世界に希望を生み出そう

WEEKLY REPORT

会長 鈴木 司郎 幹事 高橋 雅明 例会 毎週木曜 12:30~13:30 旅館 エビスヤ 事務局 山形県高島町高島911-2-2F tel 0238-52-5440 fax 52-5444

本日の例会 [2683 th] 2024. 3. 7

立正大学 社会共生学部公共政策学科
准教授 大沼瑞穂氏

前回の例会 [2682 th] 2024. 2. 22

高島町立 高島中学校
校長 完戸陽介氏

- ・ 点鐘12時30分 庄 司 薫 副会長
- ・ 県 民 歌 最 上 川
- ・ ロータリーソング 奉 仕 の 理 想
- ・ ソングリーダー 梅 津 陽 一 郎 君
- ・ S A A 大 浦 英 樹 君

会長あいさつ

庄司 薫 副会長

今日のゲストは高島中学校の完戸陽介校長先生をお迎えしております。後ほど講話をいただきますのでよろしくお願いいたします。

最近のドラマで宮藤官九郎脚本の「不適切にもほどがある」というドラマがありますが、久しぶりにはまって見えています。80年代のザ・昭和のダメ親父の中学校教師から今の令和時代にタイムスリップする話です。

ドラマの中でのセクハラ、パワハラ、コンプライアンス、こういったものが社会を窮屈にしているという事をシニカルに描いていますが、80年代に青春時代を過ごした私たちにとって共感できることが多く昔を思い出しながら苦笑してドラマを見えています。

完戸先生も長く教員をされており、時代の流れと学習指導内容の変化の対応もいろいろ思うところではないでしょうか。

私たちの部活動時代は、水を飲んではいけなくうさぎ跳びをし連帯責任を負わされた時代で、授業の時も先生からチョークが飛んできたこともあり黒板消しであたまをたたかれたこともありました。ドラマの中では80年代の授業で、タイムマシーンを作りたいという生徒に「君ならできるよ」と阿部さだお演じる教師の言葉を信じてタイムマシー

ンを作る話ですが、不可能なことでも教師や大人の一言が背中を押し、夢をかなえるのはどの時代もおなじではないかと思って見えていました。

今の時代考えられないことだらけですが、これからの教育や地域のかかわりなど今日は完戸先生からお話しを聞くのを楽しみにしております。

スマイルBOX

- ・ 梨郷神社より 甲辰歳御縁年梨郷神社参拝募集の案内にご興味のある方は私までご連絡をお願いします。

平 清美 君

《幹事報告》

高橋 雅明 幹事

< 能登半島地震募金額 >

- ・ 1月18日分 20,000円・1月25日分 21,000円
 - ・ 2月1日分 0円・2月8日分 19,000円
 - ・ 2月15日分 1,000円・2月1日分 0円
- 3月14日第二例会まで例会場に設置しております。

《出席報告》

会員数 47名 出席者数 16名 出席率 34.04 %
前回修正47名 出席者数 33名 出席率 70.21 %

《メーカーアップ》

大河原 章君・戸田 英夫君・土屋 衛君
鈴木 司郎君・加藤由香里君・大浦 英樹君
齋藤 富義君・井田 和史君・庄司 岳史君

次回の例会 [2684 th] 2024. 3. 14

株式会社 エフ・シー・エス
代表取締役 金丸まゆ氏

次々回の例会 [2685 th] 2024. 3. 21

ひっぽりうさん 例会
高砂屋珈琲店